

麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 動物応用科学科

職階 教授

氏名 大木茂

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・・ 毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・ 3年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年

1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

専門ゼミ：卒業論文に生かすため、専門文献(日本語/英語)の輪読を行っている。時期ごとに卒業論文の中間報告を行い、Q&Aにより問題意識の明確化、知識の正確性を高めた。卒論発表会をプレゼン技術向上目的にポスターで行い視角で自身に振り返りを行っている。

卒業論文：卒論生一人一人個別のテーマを設定し、科学の伝達の時間帯を含め個別に指導をしている。問題意識、構成、オリジナル調査・統計分析の指導、数次にわたる提出と朱入れをとおして、完成版の提出に至る。一人一人に問題意識を深めていけるようなアドバイスを心がけた。卒論発表会をプレゼン技術向上目的にポスターで行い視角で自身に振り返りを行わせた。

科学の伝達：卒業論文に関する問題意識の深め方について主にゼミの時間帯で専門書輪読を通じて指導した。就職活動などで欠席するときは、事前にレジメを提出し、朱入れするなどおこない、就職活動が卒業研究の妨げにならないようにした。

動物資源経済学：2年前期の必修であることから、就職活動に寄与できる内容の伝達に心がけた。動物と食・農・環境との関わりを伝え、動物が人々の暮らしや経済活動とどのように関わるのかを示すことを心がけた。幅広い知識の理解/修得を最も重視している。一方で、経済学的な概念を可能な限り紹介した。

経済学：1年後期の選択である。動物に興味を持って入学しているため、動物、とりわけ産業動物の経済学と食や健康、環境のつながりの理解、世界的に関心の高まるアニマルウェルフェア配慮とその食品の展開を紹介し、俯瞰的に社会を見ることの重要性をしめそうとしている。

動物資源経済学演習：中山間地域における獣害対策を契機に地域振興を行う島根県美郷町で現地合宿を行い、地域問題を理解し、そこでの獣害対策・地域振興の取り組みを理解しようとした。こうして問題発見、課題設定、問題解決、そのための総合的な知識/情報/資源の活用などの重要性を認識/理解することで、キャリア形成、キャリアチェンジ能力を養うことを目的とした。

スタディ・スキルズ：1年前期必修である。大学での学習方法や必要とされる力について演習方式で学ぶ。具体的には、①レポート・論文の書き方などの文章作法、②ノートの取り方、③プレゼンテーションやディスカッション、ディベートなど口頭発表技術、④論理的思考や問題発見・解決能力、⑤時間管理・学習習慣、等を身につける。学生にテーマを10程度提示し、自分の興味に合わせたテーマでの上記課題に取り組んだ。これまでと異なる文章の作成に方法などを学ぶことで、大学時代のみならず、今後に生かせる力を身に付けてもらう目的である。

動物応用科学実習：1年前期必修である。動物応用科学科は、研究室により扱う動物も大動物から実験動物を含む小動物と幅広く、講義も畜産学から動物介在活動や野生動物まで幅広いが、家畜を扱う学問が基礎であることを理解する。この実習で行われる搾乳や給餌など家畜管理を通して、動物と人間と環境の関わりを考える能力を養う。

牧場実習：牧場での実習により、産業動物のハンドリングを詳細に理解する。また産業動物の経営に必要となる資源、施設、資金、仕事の拡がり学ぶ。動物応用科学科で2-3-4年次に学んでいく内容に参考となる貴重な体験を積むこと、そしてそのよりよい生かし方について考察を深める。

キャリア形成：2年後期必修で社会調査論と併せて単位を構成している。将来の就職活動を有意義に行う為に、キャリアに関する考え方、動物応用が関係する仕事の内容などを学び、目的意識を高めることを目的とする。なかでも「卒業生との交流会」を開催することで、学科の先輩から仕事や就職活動への心構えを聞くことで就職活動に向けた準備をおこなう。

基礎ゼミ：1年後期の必修。概ね8人ずつ4クールを受け持つ。勉強と研究の基本は、文章を正確に深く理解することであると考えて、専門につながる一般的な書籍を輪読し全員発表をしてもらっている。文章が読み込めていない事例が少なくないので、報告を聞きながら内容の確認をすることで、読み取れていない点を減らしていくことで基礎的学習力の強化を図っている。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
卒業論文	動物応用科学科	必修	4	10
専門ゼミ	動物応用科学科	必修	3	3
科学の伝達	動物応用科学科	選択	4	8
動物資源経済学演習	動物応用科学科	選択	4	11
動物資源経済学	動物応用科学科	必修	2	167
社会調査論・キャリア形成	動物応用科学科	必修	2	160
牧場実習	動物応用科学科	選択	2	66
動物応用科学実習	動物応用科学科	必修	1	136
スタディ・スキルズ	動物応用科学科	必修	1	137
基礎ゼミ	動物応用科学科	必修	1	137
経済学	動物応用科学科	選択	1	28

2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

学生一人一人が自分の興味について認識し、その興味をくじけることなく追求し続ける持久力と深く追求していける探求力をもった主体性のある学生を育てたい。理科系学科で社会科学を教える意義としては、将来にわたる職業生活の中で、新しい事柄にチャレンジしていけるような興味の広さ、そして興味を持ったときにこれまでと異なる分野でも深めていけるような穴のない基本的学力の獲得、深く探求していける思考力と実行力を持てるようになるにはどうしたらいいかを考え教育を行っている。

また高校までの勉強と大学での勉強の意味の違いを認識し、考え方の幅の存在と考え方の違いを踏まえて、自分の考えの形成・新たな課題の発見に役立つことを心がけている。また知識や能力があってもそれをどのように生かすかを間違えないようにすることも同じ程度重要であることも示すようにしている。

3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

理念を実現するには、第一に姿勢が重要である。可能な範囲で主体的な自発性に依拠した教育を行うことを重視している。そして毎回の授業への復習課題を課すことで勉強・学問・課題に向き合う姿勢の形成を試みている。

第二に、教育の向上という点から、学生の要望に対応すると同時に、まずは多くの知識を理解し吸収できるように、授業資料を多く提供し、深くあるいは細部を丹念に理解しようと試みることを可能にしようとしている。

第三に、質問・疑問に関しては、次回授業や追加スライドにより理解定着を図る。そのことで授業進行に支障が出たときは、資料の補足により対応している。

第四に、授業参加により、将来の進路を考える上で参考になるような、視野を広げられるような内容提供を重視している。

当研究室の専門性である、経済学・動物資源経済学においては、上記に基づいて、毎回の授業に関し理解度確認の復習テスト、授業内容の要点を整理したノート(レポート)、そして自由レポート(枠外の評価)により、自主性・主体性を喚起し、ステップを踏んで理解を進められるようにしている。又フィードバックとしては、復習テストの解説を次回の授業で行うことで、理解定着を図っている。

(1) アクティブ・ラーニングについての取組

有

動物資源経済学、経済学において、毎回の授業後に確認テストを実施し、さらに、それぞれ授業内容の整理を課題レポートとして課した。スタディスキルズでは、前半は個人作業ながらも課題に対してレポート作成するなどの活動を行い、後半はグループワークを行ってきた。キャリア形成においては、同窓会が主催する卒業生と在学生の集う会への出席を義務づけ、卒業生の属する業界の説明(15業界から3業界程度を選ぶ)などをもとにレポート提出を義務づけた。

(2) ICTの教育活用

有

講義資料はパワーポイント資料とし、授業前と授業後に配布した。又毎回の授業確認テストもアザムードルのテスト機能を活用して各回3ないし4問を出した。テスト回答期間は1週間弱として無理のないように設定した。また記述式の確認問題はグーグルフォームを利用して提出させた。

4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

B

講義に関して、とりわけ教科書など出ててくる基本的な図表に関しては、その読み方を直接問うことで、必要な間違いのない正確な図表の読み方を身につけてもらうように心がけた

(2) 学生の理解度の把握

B

毎回の確認テストにより、授業内容の理解度を把握するように心がけたものの、再度説明してもその効果が測定はできていない

(3) 学生の自学自習を促す工夫

B

講義において、社会科学（経済）の時事情報を毎回解説することにより、経済への興味・関心を引き出そうとしている、そのことにより自学自習の姿勢を引き出すことも目的としている

(4) 学生とのコミュニケーション

B

講義において、質問を投げかけることでコミュニケーションを取ろうとしているが、ごく一部に留まっている

(5) 双方向授業への工夫

B

講義において、授業中に内職をさせないように、質問や確認テスト問題の内容を示すなどして学生の注意をひこうとしている

5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 授業評価アンケート結果の授業への反映

動物資源経済学：2023年授業評価の回答数が多くなかったため、2024年のコメントに基づいて記載する。まず、スライドがわかりにくい・文字が多すぎるとの指摘があった。また「情報をシンプルにしてほしい」という意見もあった。そのため、わかりやすいよう心がけてはいる。テキスト（書籍）を読んだ上で、そのポイントをまとめてはいるが、それでも文字は多くなってしまふ。箇条書き程度にポイントを示して覚えやすくしてしまうと、社会の理解には役立たなくなってしまう。社会を理解するには、一定の込み入った背景も踏まえて理解する必要がある。また指示が曖昧、テストの問題文がわかりにくい等の指摘があった。これについては見直したが、さらに推敲を重ねたい。「授業中にスライドの文字を追加するのはやめてほしい」という指摘があった。教員の準備不足の部分は、より善処したい。「内容が多すぎる」との指摘もある。これに関しては、すでに実施しているがさらに内容を減少させたい。「文字が多くいいことがわからない」という指摘がある。いいことというよりも、事実を理解するための説明はどうしても長くなるので、工夫をしているがさらに工夫を重ねたい。

スタディスキルズ（2024）：学生の意見を否定する等、口調が強めである等、の感想が合計5人から出されている。スキルズは近年、課題をこなすことが難しい学生が増えているように感じており、指摘の批判に思い当たることはないが、テーマに関する一般的基礎的知識量や論理の組み立てが、期待と大きく乖離していることを背景に取ってしまった姿勢・口調であったのではないかと思われる。これについては大いに反省すべきであるし、皆の前で論理の間違いや主張するには学ばなければならないことがたくさんあることを指摘しなければ伝わらないのだが、言い方・伝え方に難があるのだと思われる。工夫したつもりだが、一層気を引き締めて伝え方を工夫してゆく。

(2) (1)の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

動物資源経済学：新聞記事などは復習用スライドには記載している。事前配布と復習用スライドでは追加スライドがあり異なることを周知したい。改善の具体的な成果がでていないので、引き続き学生の指摘に対して、よく考えて対応策をとっていききたい。学生の雰囲気は毎年異なるので、その年の学生にふさわしい対応を取っていききたい。

(3) (2) を踏まえた次年度の取組

動物資源経済学・経済学ともに、小テストの受験率が低かった。そのため、2025年度は小テスト、レポート、定期テストを合わせて実施することとする。また授業内容を削減し、スライドの文字数も減らして、少しだけシンプルに整理したい。

6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

授業に出席させる工夫をすること。経済に関心を持ってもらうような導入のトピックスを毎回取り扱うこと。授業中に、理解できたかどうかを、直接学生に聞くこと。

(2) (1) の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

動物資源経済学：2024年の授業評価には、経済にはあまり興味がなかったため知らないことをたくさん学べた、といった積極的な評価も15件ほど見受けられたので、一定の評価をしてくれる学生もいることに安堵している。同時に、改善を続ける必要もあると思っている。

7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

2023年1月20日FD研修会 デジタルマッピング

2022年11月28日FD研修会 講義科目における成績評価

2022年9月14日FD研修会授業目的公衆送信補償金制度に関する利用報告

2022年3月10日FD研修「麻布大学のデータサイエンス教育」

2022年3月25日FD講演会『2021年度授業に関する説明及び授業デザイン』

8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

短期目標

半分以上の学生から考える上での参考になった、という授業をしたい。

できれば1割ぐらいの学生からは、私の示した事実・論理に、それは間違いではないですか、あるいは私は異なる考えです、といった意見を示してもらえるような授業になりたい。

そのためには、技術的に、授業内容の効率的時間配置を行い、多様な教養的情報とその情報検索方法を知ってもらうようにしたい。

長期目標

STEMからSTEAMにという教育のトレンドがあるが、Aはリベラルアーツであり、人間を自由にさせる技の一つとして経済学的な見方を提供し世の中の課題発見・解決策提示を行うことが目的で、経済学的な見方を学んだ学生が、産業動物の経済に関して、興味を持って卒業論文に取り組むようにしたい。

9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

動物資源経済学シラバス

経済学シラバス